

# 富山県発! 頑張る企業の 経営者は想いを語る

当社、日医工株式会社は、医療用医薬品の製造販売を行っております。グループ内には、連結子会社である医療用医薬品の製造販売を行う「日医工ファーマ」（6月に合併）、殺菌消毒薬などの局方医薬品を製造する「ヤクハン製薬」、臨床試験受託事業を行う「イーエムアイ」、医療行政情報や医薬経営情報などの付加価値情報の提供を行う「日医工医薬経営研究所」また、関連会社として医薬品原体の製造販売を行う「アクティブファーマ」、サノフィ・アベンティスグループと戦略的提携により設立した「日医工サノフィ・アベンティス」を抱え、グループの従事者は1,100人であり、国内ジェネリックメーカーナンバーワン企業として「ジェネリックメーカー世界TOP10」に挑戦することをビジョンに掲げています。

## 「超品質」製品を生み出す最新設備と一貫体制

昨年10月には、世界に挑戦するシンボルとして、グローバル開発・品質管理センターハニカムHoneycomb棟を竣工いたしました。この施設は、日本のジェネリックメーカーを代表し世界に挑戦するシンボルとして開発と品質管理を担い、従来より稼働している生産施設ネクステージNexstage棟・ペンタゴンPentagon棟との融合により日医工グループの品質方針に基づく「超品質」のジェネリック医薬品の生産を可能にしました。

これにより、開発・生産・品質管理の一貫体制が実現し、ジェネリック医薬品の市場拡大による開発の効率化・スピード化の要請に十分対応できるようになりました。また、施設内は、自然光をふんだんに取り入れ、立山連峰を一望できるミーティングスペースや食堂、開放感あふれる吹き抜け空間など、より良いジェネリック医薬品を創造するためのアメニティを備えました。

昨年発生した東日本大震災の際には、医薬品製造販売業という生命関連企業である当社ができることを考えました。被災地ですぐに必要とされた消毒液をできるだけ早く届けることが急務だと考え被災地に送りました。ヨウ素剤のヨウ化カリウム丸の無償提供も同様です。また、日本赤十字社を通しての寄付を行い、7月に開催した「日医工女子オープンゴルフトーナメント」においても収益金を全額日本ユニセフを通じて寄付をいたしました。私たち日医工グループは「WITH ONE WISH・希望をチカラに」をスローガンとし復興支援のためのさまざまなプログラムを実行してまいりましたが、今後も継続的に、被災された東北の子供たちの支援を中心に寄付を行ってまいります。

## 日医工株式会社

代表取締役社長 **田村 友一氏**

本社所在地 〒930-8583

富山県富山市総曲輪1丁目6番21号

設立 1965年7月15日

事業内容 医薬品、医薬部外品、その他各種薬品の製造販売輸出入等

代表者 代表取締役社長 田村友一

資本金 135億5773万円

売上高 連結777億円

(2011年11月期)

## ジェネリックメーカー世界TOP10への挑戦

当社の事業であるジェネリック医薬品を取巻く環境は大きく変化しており、日本国内の市場は拡大していますが、海外大手ジェネリックメーカーのみならず、国内外新薬メーカーや異業種企業もジェネリック医薬品事業への参入をしており、市場競争は激化しています。

政府は、2012年度までにジェネリック医薬品の数量シェアを30%以上にする目標を掲げていましたが、直近の数量シェアは23.6%にとどまり、日医工の予想では、2016年3月に30%に到達すると考えております。

そのような状況の中、4月1日から薬価改定、診療報酬の改定が行われ、新たなジェネリック促進策がスタートします。

このチャンスの年に、当社グループは、創立50周年に向けての4ヵ年計画である、第6次中期経営計画「Pyramid」をスタートさせます。2016年3月期に売上高1,300億円を達成し、「ジェネリックメーカー世界TOP10」を目指します。



## 潜在需要を見越しての新たな事業展開

近年、抗体医薬と呼ばれる新しい蛋白質性医薬品が注目されています。現在国内では十数種類の品目が上市されており、がん、リウマチ等に対する優れた薬剤として広く使用されています。しかしながら問題点として、一般に抗体医薬の生産には大規模な設備と高度な技術が必要なので、薬価が非常に高く、そのため患者の負担が大きく患者中心の医療への障害となっています。

また、現在上市されている抗体医薬は、国内および海外の製薬企業の売り上げの大きな割合を占めており、更に抗体医薬の対象となる病因分子（すなわち開発ターゲット）は数百に及ぶと言われており、潜在市場規模は少なくとも現在の数十倍だと推定されています。加えて、現在上市の抗体医薬は今後順次特許の期限を迎えるので、いわゆるバイオ後続品としての市場も加わってきます。

そのような観点から、当社もバイオ医薬品への展開が避けて通れないと考え、事業に乗り出しました。これにあたり、2010年度からスタートした富山県立大学工学部 生物工学科 牧野 祥嗣先生との共同研究により、バイオ後続品の薬剤開発関連情報収集、分析技術習得及び人材育成に役立てさせていただいています。

## 大学連携における有効利用方法

富山県立大学の遺伝子工学に関する分野での研究は優れており、高分子医薬品開発における研究設備の使用、技術指導が、共同研究を通じ手軽に行えること、また、当社の設備投資が完了するまでに、そこに配属する人材の育成という点において、産学連携は非常にメリットとなっています。

富山県立大学との連携により、人的体制の確立が早期に行えることは、当社にとっても意欲的に研究を進めていけますので、今後も、最新の設備で共同研究が行えるように、恵まれた環境作りをしていただければと考えております。